

平成 28 年 9 月 2 日

各 位

株式会社三井住友フィナンシャルグループ
株式会社三井住友銀行
株式会社 J S O L

AI の実用化に向けた取組について

株式会社三井住友フィナンシャルグループ（取締役社長：宮田 孝一、以下「S M F G」）および株式会社三井住友銀行（頭取：國部 毅、以下「S M B C」）は、お客さまへのより利便性の高いサービスの提供や S M F G 各社の業務効率化を加速するため、AI の実用に向けて、数多くのさまざまな POC（ 1 ）を積極的に推進しております。

その取組の一環として、株式会社 J S O L（代表取締役社長：中村 充孝、以下「J S O L」）は、S M B C および S M F G が実施する POC のプラットフォームとして、Google Inc.（以下「Google」）が提供する Google Cloud Platform（以下「GCP」）の活用について技術支援しますことを併せてお知らせいたします。

S M B C および S M F G では、多種多様な AI の実用に向けた POC を実施し、実用が見込める AI を順次活用してまいります。現在 10 件超の POC を行っており、本年 9 月より順次結果の評価を行い、実用に向けた計画策定を予定しております。

（ 1 ）POC(Proof Of Concept) :

新しい概念や理論、原理などが実現可能であることを示すための簡易な試行のこと。

1 . 取組内容

（ 1 ）実用可能な AI の早期活用

- ・ 進展著しい AI 関連テクノロジーについて、主要 IT ベンダーやベンチャー企業の最新技術や先進事例を情報収集し、海外駐在員も含め、幅広く調査を継続的に実施します。
- ・ 情報収集した結果を基に、各業務システムへの適用が見込める AI の実用を検証しています。

(2) 業務の高度化・自動化を担う独自の AI を創造

- ・ S M F G 各社における業務システムの課題対応や改善に向けて、AI をその実現手段となる技術と捉え、多種多様な AI 関連テクノロジーを活用した POC を推進し、金融機関としての業務の高度化・自動化を図ります。
- ・ POC では、AI の実用に関する試行錯誤を繰り返しながら独自の AI を創り、AI 活用における競争優位性の獲得と差別化を目指します。

(3) AI 活用のスピード化と利用拡大 (AI 化)

- ・ 上記の取り組みを通じて、AI 活用の知見やノウハウを蓄積し、AI 導入のフレームワークを策定することで、金融 IT システムへの AI 活用のスピード化を図ります。
- ・ 現在の金融サービスには情報技術 (IT) が必要不可欠であるが、将来は AI が一般化していく潮流を踏まえ、AI 活用の対象業務を拡大してまいります。

2 . GCP の活用と狙い

(1) 効率的な POC の実施

- ・ S M F G および S M B C におけるさまざまな AI 活用策を推進するには、AI 活用に関する知見とノウハウが重要であり、数多くの試行錯誤を効率的に繰り返すことが可能なコンピューティング環境が必要となります。
- ・ GCP は、複数の実用検証が同時並行的に実施可能であり、AI 活用のコンピューティング環境として有用 (2) と考えています。

(2) AI 化における協働

- ・ S M F G および S M B C は、Google Cloud Platform のサービスパートナーであり且つ金融機関向けのシステムに知見のある J S O L (3) と協働することで、早期に GCP を活用しています。
- ・ Google からのサポートとアドバイスを活用しながら、AI (異常検知や予測等の分野) の POC を実施しています。

(2) GCP は Google のクラウドサービス基盤。インフラ系サービスからビッグデータ関連サービスまで広くラインアップがされ、社内でも活用がすすんでいる機械学習に関連するサービスが提供されている。

(3) 2014 年 Google Cloud Platform Special Contribution Award を受賞

今後もSMFGおよびSMBCは、AIをはじめとしたフィンテック関連の技術やサービスをオープンに取り入れながら、より一層の商品・サービスの向上に取り組んでまいります。

JSOLは、お客さまにおけるITシステムの業務課題を解決するため、GCPを活用したAI導入サービスの提供に努めてまいります。

以 上